

# デザインの現場

## 6 DESIGNERS' WORKSHOP

JUN 1993 VOL.10 NO.62 [隔月刊]

[対談]

江並直美×タナカノユキ

[インタビュー]

フジテレビ「ウゴウゴ・ルーガ」+

小畑正好+戸田ツトム+

重藤賢一+トッド・ラングレン

[西海岸リポート]

ヌートピア+スコット・フィッシャー+

ジョージ・コーツ+『WIRED』編集部

総力特集

design in the

# computer age

# コンピュータ時代のデザイン

[メーカーリポート]

ソニー+バイオニア+資生堂+

東芝ライテック+竹中工務店+大林組+

ゴールドウイン+松崎+ナムコ

[特別企画] デザイナーのためのコンピュータ・ガイド

今、気になるグラフィック・ソフトガイド

デザイナーの味方! 出カショップガイド

[コンピュータとデザイン教育]

東海大学短期大学部+多摩美術大学+

慶応義塾大学

[特別記事]

東京アートディレクターズクラブ40周年記念展

[連載]

デザイン時評 柏木博

モダンデザイン史再訪 海野弘

Macintosh Special Training



# 化石のイメージをもつ素材—— デヴィッド・ハーツの〈シンデクリート〉

八木章画+田中玄

Akira Yagi + Gen Tanaka

designscape

FROM LA



●左—デヴィッド・ハーツ「Opening」  
Brown 一九九二 シンデクリートを使用  
した作品  
●右上—デヴィッド・ハーツ氏

「シンデクリートはリサイクルという概念にもっとも適ったマテリアル」というのは、サンタモニカにあるデザインスタジオ「ヘンデシンス」(Synthesis)を主宰するデヴィッド・ハーツ。シンデクリートは耐久性に優れているので、リサイクルの必要性はほとんどなく、もし必要に

追られても自然の砂、砂利、セメントから成るため、リサイクルが容易、膨大な熱エネルギーを消費する金属のリサイクルに比べ、シンデクリートは砕くだけだから。彼がコンクリートの可能性を追求し始めたのは、南カリフォルニア大学在学中に、フランク・ゲリー、ジョン・ロットナーといっ

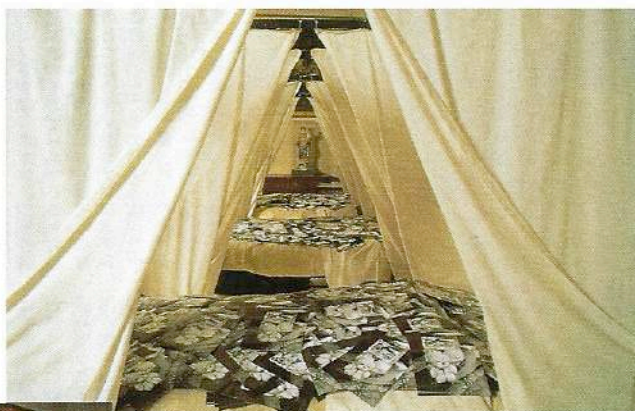
た、マテリアルとしてコンクリートを多く使う建築家の下で働いた経験からだったという。そのうち重量が分厚さを、彼のデザインやアイディアに適した形にできないかと考えて開発したのが、ライトウェイト・コンクリート「ヘンデクリート」(Synthesis)だ。これは、彼の環境保護への思い

を力強く表現したマテリアルである。ナチュラルのセメントベースにリサイクルされた灰、繊維、砕いたガラス、木片などを混ぜ、リサイクルマテリアルと自然のマテリアルの融合による合理的使用が狙いである。重さは通常のコンクリートの半分、圧縮強度は二倍で、表面の多種多様な表現が可能。その扱いやすさから、絶好のカウンタートイ材、床材として、建築家やデザイナーに好んで使われており、彼自身がデザインするバススタブ、キッチンカウンター、家具などもよく知られている。

最近手がけたライノレコード社のプロジェクトでは、床材(シンデクリート)に会社の廃棄物、古いレコード、CDやカセットテープのケースなどを砕き、テラゾー(人工大理石の一種)のように埋め込んでいる。会社のイメージを恐竜やアンモナイトの化石のように表現した」というこのアイデアによって、彼の化石のようなイメージを持つ都市「アーバン・フォシラ」を構想しているのだそうだ。

「ヘンデシンス」は、マテリアルの製造のみならず、家具、建築などを総合的にデザインするマルチデザインスタジオだと彼はいう。スタッフには材料学者もおり、製品の品質向上にも努めている。

今後の彼の研究は、リサイクル・ポリフォームをコアとした軽量シンデクリートのビルディング・パネルの開発だという。同時にその住宅工法もデザインしていくようだ。彼は、コンクリートの新しい可能性の追求によって、環境問題に一つの解答を提示しようとしているのだ。「7wウィックデザイナー」



●上—デルフィーヌ・ブデル(Delphine Bedel)のベッドを使ったインスタレーション「11号室」  
Photo by Thierry Beghin



●左—コスチューム・デザイナー、ジュディット・フルニー(Judith Fourny)の寸劇形式のショー「役者もかげろう病院」で活動する人たち  
Photo by Mélodie Hamard